

# 慢心のその先

S・J 家電配送業（22歳）

あの時の私は仕事に追われ、毎日車を運転していました。運転には自信があると思っていました。その年の7月、私は重大な事故を起こしてしまいました。

当日は朝6時に家を出て、

外回りの仕事を終え、会社に戻るといふ、いつもと変わりの日はいつもより早め

この日はいつもより早め仕事が終わる、気分も少しだけ高ぶっていました。高速道路を降り、一般道に出

た後、眠気を感じました。すぐその道の駅で1時間半ほど眠り、起きたのは22時を超えていました。「早く会社に戻って明日の準備をしなければ」と思い、急いで運転を始めました。当時の私は毎日仕事が続いていました。「仕事を早く終わらせればその分早く帰れる」と思

い、運転中に翌日の仕事のことを考えることもあり。この日も片側1車線の道路で見晴らしも良い。つもの道を翌日の仕事のことを考えながら運転して。い

被害者の方が亡くなるとは思っていませんでした。次の日に親に連絡があり、被害者の方が亡くなられたと聞いた時には目の前が真っ白になりました。警察の方々に被害者、ご遺族の方々の連絡先を聞き、謝罪に行く。無表情で言葉を発する。ご遺族を見て「人を殺してしまった」と改めて実感しました。

市原刑務所に来て改善指導を受け、自分がしてしまったことの重大さ、ご遺族の苦しみ、自分の過信がどれだけ周りの人を苦しめるのか、改めて実感しています。刑務所に入るまではあまり実感がなく、「運が悪かっただけだ」などと思っていました。改善指導を受けるにつれて、自分のしたことの重大さ、

出所後もこの気持ちを忘れず、被害者並びにご遺族のかたには一生償ってきたいと思っています。そして、自分の周りの人たち、被害者、ご遺族、色々な人たちを巻き込んでしまい、一生消えることの無い事件を起こしてしまった罪を心に刻み、果たすべき責任を必ず果たし、もう二度と慢心しない覚悟でいます。

そして交差点に差し掛かる時、黄色点滅の信号のところに車がいるのを確認したものの、その車が止まっているとは思わず、そのまま直進してしまいました。

しかし、在宅起訴になり、裁判をしている間に私はあることか無免許運転をしてしまったのです。「ちょっとだけだから」、「少しだけ」、「気を使っていれば事故なんてもうしない」と自分を過信してしまったのです。

人の命を奪うことがどれだけのことなのかを思い知りました。今は被害者並びにご遺族に大変な思いをさせてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいです。自分の過信や慢心、危機意識の低さにより、色々な人に迷惑をかけてしまったことを今更ながら学びました。謝罪をしても人の命は戻ってこない、残されたご遺族の悲しい気持ちや怒りの気持ちはずっと残る、自分の慢心ひとつでこれだけのことが起こってしまった。今更ながら感じて

「贖いの日々」第54集より  
抜粋  
転載・二次使用を禁止します。

はっと気づいた時には、車が目の前に迫っており、ブレーキを踏みましたが間に合わず、車とぶつかりました。さらに横断歩道にいた歩行者2人にもぶつかり、自転車はコンクリートに接触してようやく停車しました。私はすぐに一〇番通報しました。その後自宅に戻りましたが、この時はまさか

その結果、無免許運転でも裁判を受け、私は自動車運転過失致死傷、道交法違反の罪で禁固1年8月の実刑判決を受けました。

そして現在、市原刑務所で受刑中です。ご遺族への賠償もまだ出来ておらず、自分の家族が手続きをして

から感じて